

(4) その他の甲虫類 (コウチュウ目)

① テントウムシ類 (テントウムシ科)

ア 対象種 (同じ呼び名で呼ばれた種)
ナナホシテントウ、ナミテントウ、ニジュウヤ
ホシテントウ等

イ 生息情報
全集落

ウ 採録した呼び名

a 総称

- ・ 一般的な和名 テントームシ
- ・ 斑点模様 モンツキ、モンツキムシ
- ・ 体の形状 オツキサン、カメ
- ・ その他 テント

b ナナホシテントウ シチグロテントームシ、
ナナツボシ

c ニジュウヤホシテントウ ギテントー、ダマシ

エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの身近な草木でよく見かけられ、多種多様な半球形状の小型の昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。体の表面は斑点模様で彩られ、種類により模様の色等の違いが大きいという。

対象種としては、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ニジュウヤホシテントウ等があげられる。

本類総称としては、「テントームシ」や「モンツキ」をはじめ計6種を採録した。

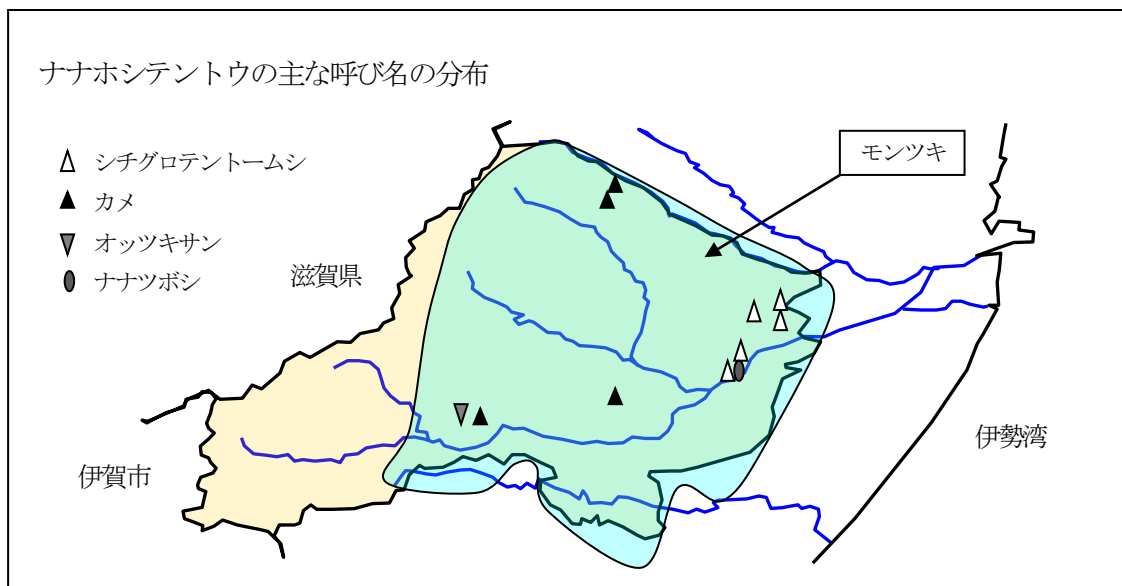
当時、郡内全域で一般的な和名である「テントームシ」と呼ばれたほか、体の模様から郡西部の一部の地域を除き「モンツキ」又は「モンツキムシ」とも呼ばれた。また、一部の集落で形状から「オツキサン」や「カメ」がみられた。

聴き取りの中で併せて、よく見かけられたナナホシテントウの呼び名として、七つの黒い斑点から庄野地区と石薬師地区で「シチグロテントームシ」、鈴鹿市汲川原町で「ナナツボシ」を採録したが、本聴き取りでは当該種の写真を用いたことから、総称として採録した呼び名も同種の呼び名であるとも考えられる。

その他、害虫と認識されたニジュウヤホシテントウについては、「ギテントー」と「ダマシ」の計2種を採録した。



ナナホシテントウ



② ハンミョウ (ハンミョウ科)

ア 対象種

ナミハンミョウ

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 道を案内するように飛ぶこと ミチアンナイ、ミチオシ、ミチオシエ、ミチオセ、ミチオセトンボ、ミチオセン、ミチシルベ、ミチムシ
- ・ その他 ミョーハン



エ 生息及び呼び名の状況

全身に赤や、青、緑色の金属光沢状の美しい斑模様のある体長 20 mm 程度の小型の昆虫であり、当時は人家の多い地域を除き郡内のほぼ全集落に生息した。

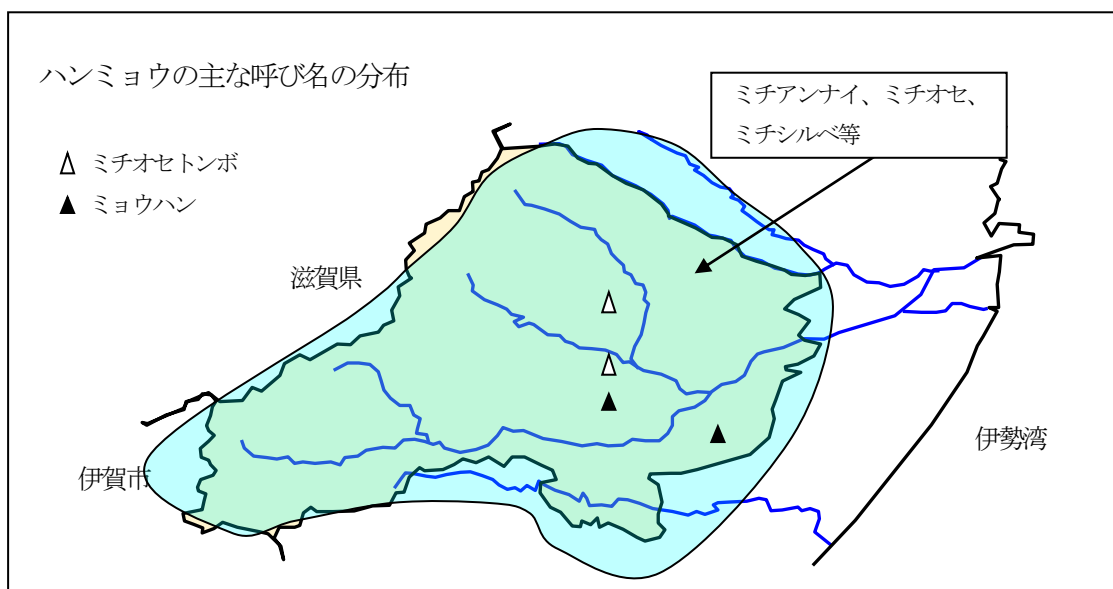
本種の呼び名としては、「ミチオセ」や「ミチシルベ」をはじめ計 9 種を採録した。

山道や林道などを歩くと、進行方向へ何度も跳ねて飛び、あたかも道案内をするように見えることから、郡内のほぼ全域で「ミチオセ」や「ミチアンナイ」等と呼ばれたほか、類する呼び名がいくつかみられ、集落内であっても人により呼び方が異なるようでもあった。

その他、一部の集落で「ミョウハン」や「ミチオセトンボ」がみられた。

オ その他

聴き取りから、本種が道案内をするように前を飛ぶと「オバの茶碗こーんだけ」(=小さくても十分)と呼んだ、という話を採録した。



③ ミイデラゴミムシ (ホソクビゴミムシ科)

ア 対象種

ミイデラゴミムシ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 臀部からガス状のものを出すこと ヘコ、ヘコキ、ヘーコキ、ヘーコキブンブ、ヘーコキブンブン、ヘコキムシ、ヘーコキムシ、ヘコムシ

エ 生息及び呼び名の状況

臀部からガス状のものを出す茶黒い小型の昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。本種の呼び名としては、「ヘーコキムシ」や「ヘコキムシ」をはじめ計8種を採録した。郡内全域で「ヘーコキムシ」又は「ヘコキムシ」等と呼ばれた。なお、こうした呼び名は集落によってはカメムシ類の呼び名となっている場合もみられた。



④ コクゾウムシ (オサゾウムシ科)

ア 対象種

コクゾウムシ、ココクゾウムシ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 白い米との対比 (様態) ゴマ、ゴマムシ

エ 生息及び呼び名の状況

玄米や精米を食害する頭部の先の長い小さな昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。

本種の呼び名としては、「ゴマ」と「ゴマムシ」の計2種を採録した。

白い米の中であって黒いゴマのように見えることから、郡内全域で「ゴマ」と呼ばれた。



⑤ ダイコンハムシ (ハムシ科)

ア 対象種

ダイコンハムシ

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 成虫 コア、サンショーブブ
- ・ 幼虫その他総称 クロムシ、サル、サルトリムシ、サルノムシ、サルハムシ、サルムシ、サンショー、ダイコムシ、ダイコンムシ

エ 生息及び呼び名の状況

大根を食害する黒い体色の昆虫であり、当時は郡内のほぼ全集落に生息した。

本種の呼び名としては、成虫について「コア」と「サンショーブブ」の計2種を採録するとともに、幼虫その他総称として「サル」や「サルハムシ」をはじめ計9種を採録した。

幼虫は郡内のほぼ全域で「サル」、「サルハムシ」、「サルムシ」等と呼ばれた。

オ その他

聴き取りから、次の捕獲方法を採録した。

- ・ 壁土を練って木に巻き付け、ひっつけて捕った。



(5) その他

① カメムシ類 (カメムシ目 カメムシ科等)

ア 対象種

アオクサカメムシ、チャバネカメムシ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 悪臭 クサムシ、ヘコキムシ、ヘーコキムシ
- ・ 体色 アオカメ、クロカメ
- ・ 一般的な和名等 カメ、カメムシ
- ・ その他 オガ、オギ、オタメムシ、クソムシ、ドンガメ



アオカメムシ

エ 生息及び呼び名の状況

多くの種類がある小型の昆虫であり、とりわけ触ると悪臭のする虫、稲穂につく害虫として認識され、現在も郡内全集落に生息する。

本類の呼び名としては、「カメムシ」や「ドンガメ」をはじめ計12種を採録した。

郡内のほぼ全域で一般的な和名である「カメムシ」と呼ばれたほか、少し皮肉った呼び方である「ドンガメ」とも呼ばれた。

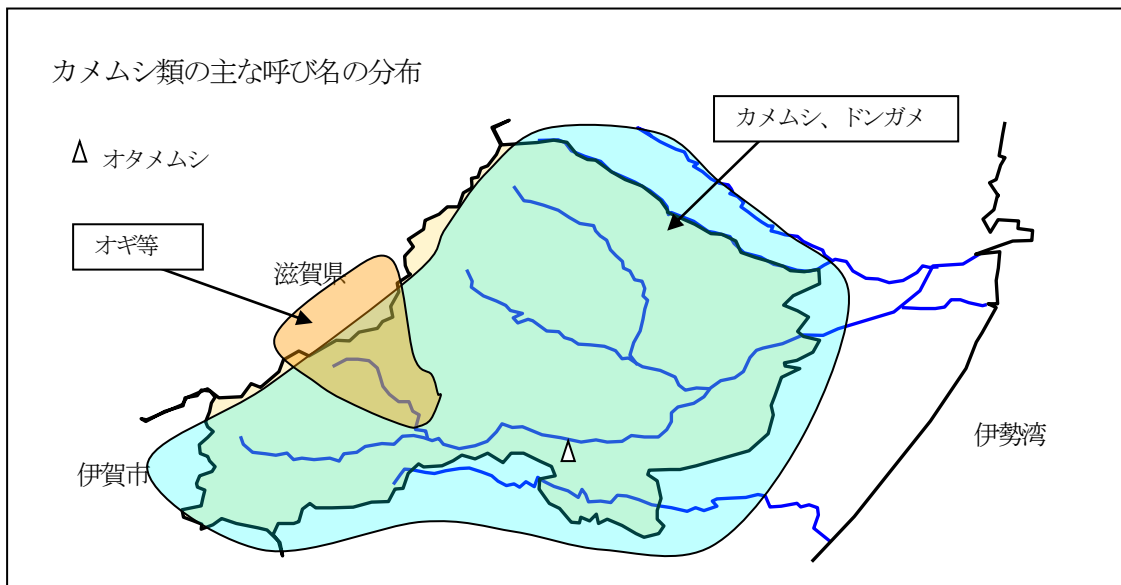
また、集落によっては体の悪臭から「クサムシ」やミイデラゴミムシの主な呼び名であった「ヘコキムシ」や「ヘーコキムシ」とも呼ばれる場合があったほか、和賀・天神で「オタメムシ」、坂下地区で「オガ」、「オギ」がみられた。

なお、隣接地域として調査を行った甲賀市土山地区では「オギ」と呼ばれ、坂下地区はその影響とみられる。

オ その他

聞き取りから、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「カメムシが多いと冬が寒い」
- ・ 「カメムシが多く発生すると台風が来る」
- ・ 「カメムシが多いと雪が多い」
- ・ 「カメムシが多いと雪が早い」



※ ホオズキカメムシ（その他のカメムシ）

聴き取りのなかで、ホオズキにつくカメムシとして、次の呼び名を採録した。

- ア 対象種
 ホウズキカメムシ
- イ 採録した呼び名
 ・ 生息場所（植物） ホーズキムシ
- ウ 採録地
 国府町



② アブラムシ類（カメムシ目 アブラムシ科等）

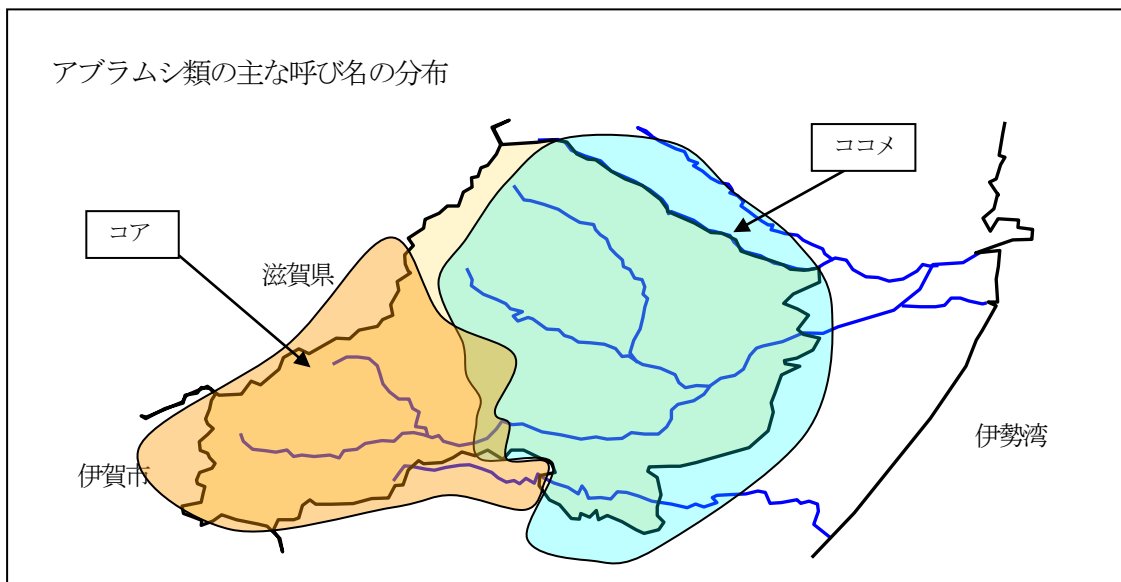
- ア 対象種
 アブラムシ、ワタアブラムシ等
- イ 生息情報
 全集落
- ウ 採録した呼び名
 ・ 一般的な和名（標準和名） アブラムシ
 ・ その他 コア、ゴア、ココメ、コゴメ
- エ 生息及び呼び名の状況
 身近な草木に集団でつき、管液を吸う非常に小さな昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。
 本類の呼び名としては、「ココメ」や「コア」をはじめ計5種を採録した。



郡内では大きく二つの呼び名の地域に分れ、両呼び名がみられた白川・神辺地区を境に海側の郡中部・東部の広い地域では「ココメ」と呼ばれ、山側の郡西部では「コア」と呼ばれた。その他、少し濁った呼び名である「コゴメ」や「ゴア」が一部にみられた。

なお、隣接地域として調査を行った津市高野尾町では「ネチ」を採録した。

- オ その他
 聴き取りから、本類が葉につくことを「アブラムシが葉をねぶる」と言った、という話を採録した。



③ ワタムシ類 (カメムシ目 アブラムシ科)

ア 対象種

エノキワタアブラムシ、ヒイラギワタアブラムシ、トドノネオオワタムシ等

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般的な和名 ワタムシ
- ・ その他 ワタボーシ

エ 生息及び呼び名の状況

アブラムシ類のうち、エノキ、ヒイラギ等につく白い綿のような形状の昆虫を指し、現在も郡内全集落に生息するようである。

本類の呼び名としては、「ワタムシ」と「ワタボーシ」の計2種を採録した。

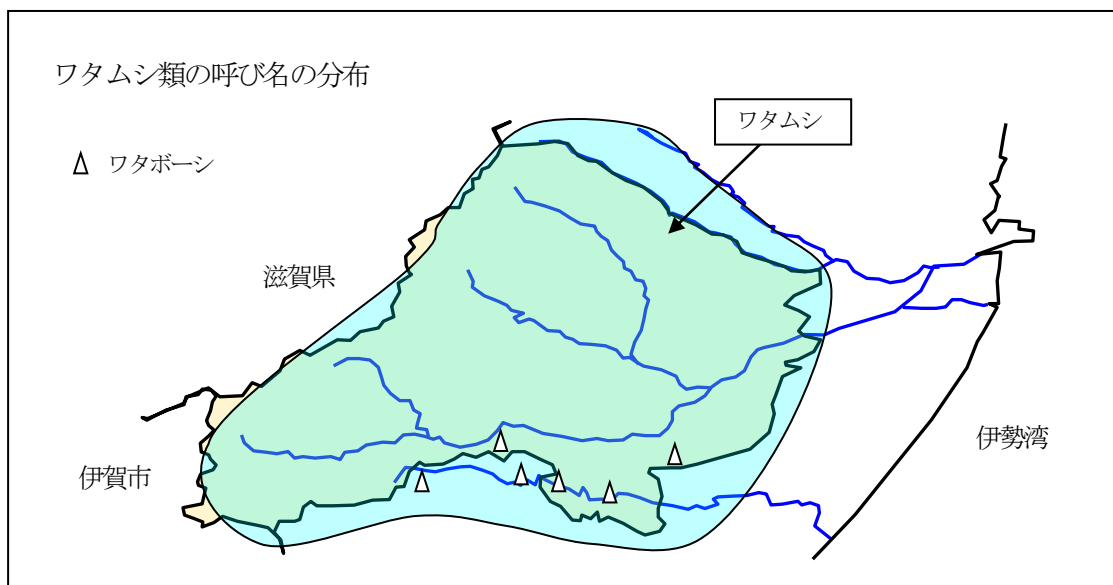
木の枝にびっしりと密集して見かけられたり、また晩秋の風があまりない日などに非常に小さな真っ白い綿が浮かぶように飛ぶようで、郡内のほぼ全域で「ワタムシ」と呼ばれたほか、郡南部の中ノ川沿いの一部の集落では「ワタボーシ」がみられた。

なお、平野部になるに従い認識されず呼び名が採録されなくなる傾向がみられた。

オ その他

聴き取りから、本類は雨降り前の風のない日に飛ぶ姿が見かけられるようで、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「ワタムシが飛ぶと雨が近い」



④ ゴキブリ類 (ゴキブリ目 ゴキブリ科・チャバネゴキブリ科)

ア 対象種

クロゴキブリ、チャバネゴキブリ等

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 地方名 アブラムシ

エ 生息及び呼び名の状況

人家の台所などでよく見かけられる黒又は茶褐色の嫌われものの昆虫である。当時は山間の一部の集落を除き郡内のほぼ全集落に生息した。

本類の呼び名としては、「アブラムシ」の1種を採録した。

郡内全域で「アブラムシ」と呼ばれ、他の呼び名はみられなかった。



クロゴキブリ

⑤ ハサミムシ類 (ハサミムシ目 マルムネハサミムシ科等)

ア 対象種

ハサミムシ、コバネハサミムシ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 尾部 (腰に見える部分) が太いこと コシブト
- ・ 尾端の挟む器官 ケツバサミ、ケツバソミ、シリバサミ、シリバソミ、ハサミ
- ・ 一般的な和名 (標準和名) ハサミムシ

エ 生息及び呼び名の状況

庭石の下などの湿気た場所で見かけられ、尾端に挟む器官を持つ小型で黒色の昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。

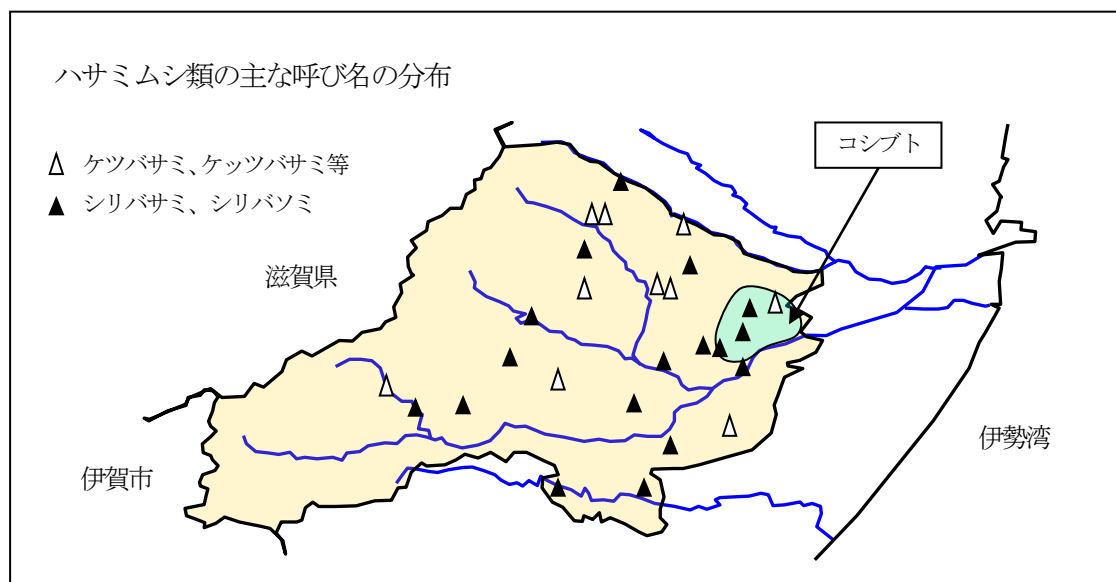
本類の呼び名としては、「シリバソミ」や「コシブト」をはじめ計9種を採録した。

石薬師地区や高津瀬地区では「コシブト」と呼ばれたほか、集落数としては限られるものの尾端に挟む器官を持つことから広い地域で「シリバソミ」や「ケツバソミ」がみられた。

なお、目にする事の少ない小型の昆虫であったことから呼び名のない集落も多くみられた。



コバネハサミムシ



⑥ ナナフシ類 (ナナフシ目 ナナフシ科等)

ア 対象種 (同じ呼び名で呼ばれた種)
エダナナフシ、ナナフシモドキ等

イ 生息情報
ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色等 アオトカキ、アオドカキ、アオトカケ、アオトカゲ、アオドカケ
- ・ 毒を持つとされること ドク、ドクカマキリ、ドクトカキ、ドクトカケ、ドクムシ
- ・ 一般的な和名 ナナフシ
- ・ その他 トカケ、ハンミョウ、フシオレ



エダナナフシ

エ 生息及び呼び名の状況

木の枝などによく擬態する細長い昆虫であり、当時は郡内のほぼ全集落に生息したようであるが、平野部となるに従い認識されなくなる傾向もみられた。

対象種としては、エダナナフシやナナフシモドキ等があげられる。

本類の呼び名としては、「フシオレ」や「アオドカケ」をはじめ計 14 種を採録した。

一般的な和名である「ナナフシ」と呼ばれた郡西部の加太地区と坂下地区を除き、郡内のほぼ全域で「アオドカケ」又は「アオトカケ」と呼ばれるとともに「フシオレ」とも呼ばれ、郡域を代表する呼び名となっていた。

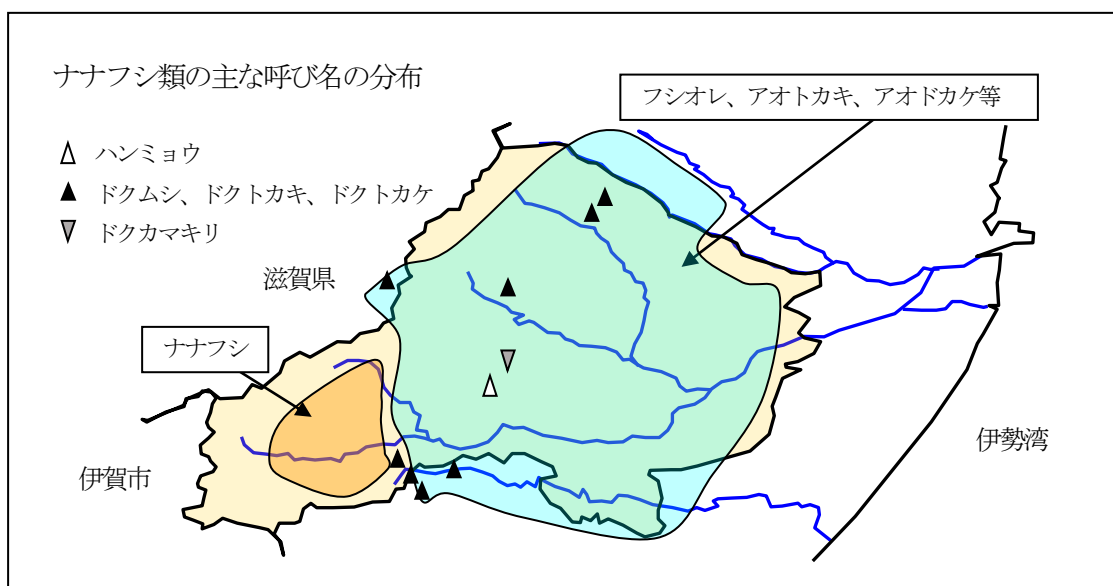
また、毒のある虫と広く見なされていたことから、集落によっては「ドクムシ」、「ドクトカケ」、「ドクカマキリ」と呼ばれたほか、白木町では「ハンミョウ」が使われた。

なお、体色による呼び名の区分けはないようで、一部の人の間ではトカゲ (爬虫類) の地方名 (「アオトカケ」、「トカケ」) と混称となる場合もみられた。

オ その他

聞き取りから、本類は強い毒を持つ昆虫とみなされていたようで、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「アオドカキを食べたら、マムシがその毒で死ぬ」
- ・ 「緑の下の土とアオドカケを煎じて飲ませば人が死ぬ」



⑦ ウスバカゲロウの幼虫 (アミメカゲロウ目 ウスバカゲロウ科)

ア 対象種

ウスバカゲロウ (幼虫)

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ アリを捕食 アリクイ、アリクイムシ
 - ・ 砂に潜ること スナジゴク、スナムクリ、スナモグリ
 - ・ 移動せずに姿を隠していくこと イザリ、イザリムシ
 - ・ 一般的な和名 アリジゴク
 - ・ その他 イキイキトンゴロー、イチイチホロホロ、コロコロ、チョンゴロー、ツンツン、トンゴロ、ドンゴロ、トンゴロー、トンゴロムシ、トントン、ホロホロ
- ※ 成虫 イッサンサガリ、カカシ



エ 生息及び呼び名の状況

通称「アリジゴク」と呼ばれ、乾いた砂場などですり鉢状の窪みを作りその下に潜り、そこに入ったアリを捕食する昆虫であり、当時は郡内全集落に生息した。

当時は墓地とともに、寺や人家の軒下等の乾いた土の所に生息し身近に見かけられたというが、近年は生活の変化に伴いそうした部分がコンクリート化されたこと等からほとんど目にすることはない。

本幼虫の呼び名としては、「イザリ」や「トンゴロ」をはじめ計19種を採録した。

郡北部の椿・深伊沢地区から、高津瀬・井田川地区にかけては「トンゴロ」と呼ばれたほか、白川地区から野登地区にかけては「トントン」、昼生地区では「イチイチホロホロ」と呼ばれた。

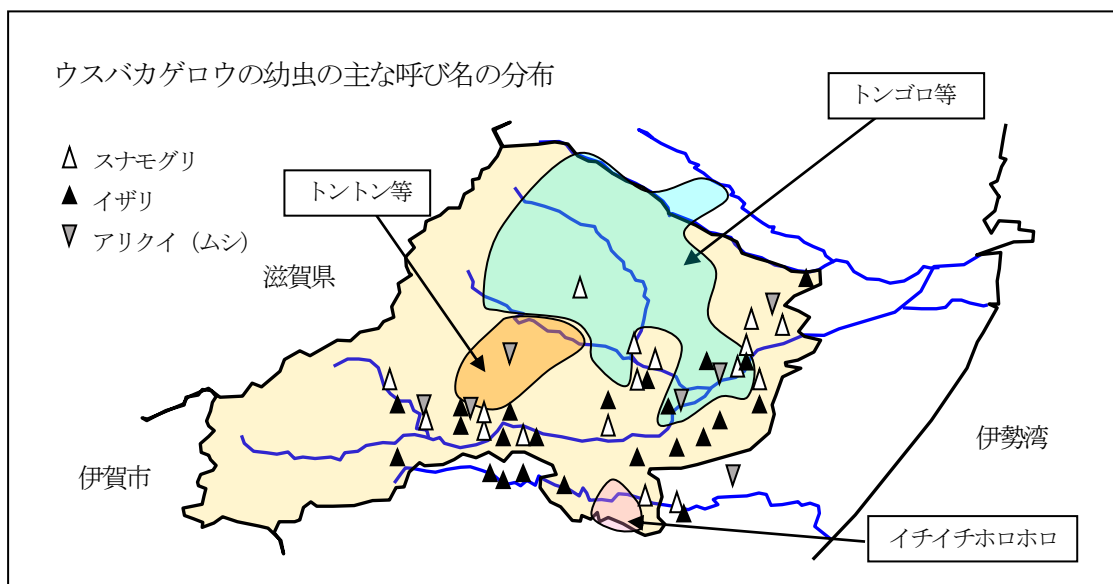
その他、鈴鹿川本流沿い及び中ノ川沿いの地域を中心に「イザリ」や「スナモグリ」がみられた。

なお、成虫の呼び名 (調査対象外) として「イッサンサガリ」と「カカシ」を採録した。

オ その他

聴き取りから、本種は息を吹きかけて捕るという捕獲方法とともに、泣き虫の子がいると「泣きみそトンゴロー、穴掘って蹴こめ」と言ったという話のほか、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「カゲローが白い所に卵を産み付けるとげが良い、黒い所に産み付けるとげが悪い」



⑧ カマキリ類 (カマキリ目 カマキリ科・ヒメカマキリ科)

ア 対象種

オオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリ
等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

a 一般 (成虫)

- ・ 拝むような様態 オガミ、オガミカマキリ
- ・ 一般的な和名 カマキリ
- ・ 体色 黄緑色：アオカマキリ
褐色型：カレ、カレカマキリ、カレハ、カレハカマキリ オオカマキリ
- ・ その他 アシナガカマキリ、カマキリトンボ、バッタ、バツタン

b 卵鞘 カマキリノス、カマキリノタマゴ

エ 生息及び呼び名の状況

棘のたくさんついた大きな鎌状の前脚を持ち、肉食性で場合によっては共食いもし、また周囲に擬態することもある昆虫で、現在も郡内全集落に生息する。

本類成虫の呼び名としては、「カマキリ」や「オガミ」をはじめ計12種を採録した。

現在と同様に、郡内全域で一般的な和名である「カマキリ」と呼ばれたほか、前脚が拝んでいるように見えることから、集落数としては少ないながら全域に点在する形で「オガミ」がみられた。

また、体色により呼び名の区別がある場合があり、黄緑色の個体は広い地域で「アオカマキリ」と呼ばれたのに対し、褐色型個体は黄緑色から色が枯れていくとされ一部の集落で「カレ」、「カレハ」、「カレハカマキリ」等がみられた。

なお、秋に草木に産み付けられた卵鞘については、「カマキリノス」と「カマキリノタマゴ」の計2種を採録した。

オ その他

聴き取りから、当時は寄生虫であるハリガネムシが尾部から出ている姿がよく見かけられたという話とともに、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「カマキリの卵を口に入れておくとよだれが出ない」
- ・ 「カマキリの卵 (又は 黒焼き) は喘息の薬」

